

2025 年 11 月 3 日

【SUPER GT 第 8 戦 / モビリティリゾートもてぎ】
2025 年最終戦で「マッハ車検 エアバスター MC86 マッハ号」が嬉しいチーム初優勝



2025 年の SUPER GT 第 8 戦がモビリティリゾートもてぎで開催。シーズン最終戦の今大会は全車がサクセスウェイトをすべて降ろし、開幕戦以来のガチンコ勝負が繰り広げられた。

11 月 1 日(土)午後、公式予選がスタートする。GT300 クラスは 2 つに分けられた Q1 で 9 台のヨコハマタイヤ勢が上位に入り Q2 へ進出。その Q2 で 2 位を手にしたのは「マッハ車検 エアバスター MC86 マッハ号(塩津佑介選手／木村偉織選手)」で、今季ベストグリッド獲得となった。

GT500 クラスは、名取選手がアタッカーを務めた「リアライズコーポレーション ADVAN Z(松田次生選手／名取鉄平選手)」が Q1 を 2 番手で通過し、Q2 で 6 位に。「WedsSport ADVAN GR Supra(国本雄資選手／阪口晴南選手)」は、Q2 進出の最後のイスをかけて 5 台が 0.1 秒の中にひしめく争いの中で、わずかに 0.026 秒届かず 11 位となった。



翌 11 月 2 日(日)の決勝も、予選時同様に薄曇りの天気。気温 20 度、路面温度 23 度とやや寒いコンディションで、いよいよ 63 週の決勝レースがスタートした。マッハ車検 エアバスター MC86 マッハ号はこのレースをタイヤ無交換で戦う戦略を採っており、スタートを担当する塩津選手は無理にペースを上げてトップを追うのではなく、最後までタイヤのパフォーマンスを維持できるようマネジメントに徹していた。12 周目には、GT500 クラスの集団が後方から迫ってくるところをかわしながらの難しいバトルで隙を突かれ、一気に 2 つポジションダウンするも、塩津選手は冷静に周回を重ねて 19 周を終える直前でピットイン。木村選手に交代した。GT300 クラスでは一番早いピットインで、木村選手は残り 41 周というロングステントを戦うことになったが、すでに熱の入ったタイヤでアウトラップもロスなくクリ

ア。その後、25 周を過ぎたあたりで上位陣が次々とピット作業に向かい、マツハ車検 エアバスター MC86 マツハ号は見た目上でも徐々にポジションアップする。ライバル勢もタイヤの 2 本交換作戦等で作業時間を削り木村選手の前でコースに復帰してきたが、相手のアウトラップで冷静にかわし事実上のトップをキープ。38 周を終えて全車のピット作業が終わると名実ともにトップに立ったマツハ車検 エアバスター MC86 マツハ号は、その後もペースを保ったまま周回を重ね、トップチェッカーを受けた。木村選手はこれが SUPER GT2 勝目で、塩津選手は初優勝。またチームは参戦 22 年目で初めての優勝となった。ヨコハマタイヤとしては今季 GT300 で 8 戦中 5 勝となった。

GT500 クラスは、リアライズコーポレーション ADVAN Z が名取選手でスタート。タイヤのウォームアップのため序盤にポジションを落としてしまったが、25 周を走り切って松田選手に交代。松田選手は 3 台をかわしてポジションアップし 11 番手でフィニッシュすると、レース後に 1 台が失格となったことで正式結果は 10 位に繰り上がり、GT ラストレースをポイント獲得で締めくくった。WedsSport ADVAN GR Supra は序盤に他車と接触したことでマシンにダメージを負い、本来のペースを出せずに 12 番手フィニッシュ、正式結果は 11 位となった。



■塩津佑介選手 (マツハ車検 エアバスター MC86 マツハ号)

【今回の成績：GT300 クラス 優勝】

ヨコハマタイヤさんがウォームアップの良いタイヤを用意してくれたことで、最初からいい形で走り出すことができました。僕自身はこのチームで 2 シーズン目ですが、去年は結果を出せず悔しい思いをしていましたし、自分に足りない部分が多いと感じていました。今年は木村選手を新たにチームメイトに迎えて、いい刺激を受けて成長できているなと思っています。勝つためにレースをやっていますし、ずっと勝ちたかったので、今回の優勝は一生忘れられないものになりました。

■木村偉織選手 (マツハ車検 エアバスター MC86 マツハ号)

【今回の成績：GT300 クラス 優勝】

前戦オートポリス大会で手ごたえを感じたタイヤでしたが、無交換で行けるのだろうかという疑問がありました。しかし、走り出してみるといい意味で裏切られましたね。勝負どころでは多少無理しないといけない場面がありますが、無理をした後もグリップが良く、性能を維持していました。そこで最後まで持つという確信を持つことができ、自分のペースで走ることができました。1 台しかいない MC86 のためにヨコハマタイヤさんが開発してくれたタイヤで優勝することができ、本当に良かったです。

■松田次生選手 (リアライズコーポレーション ADVAN Z)

【今回の成績：GT500 クラス 10 位】

最後にもう 1 台かわしたかったのですが、うまいことブロックされてそれは叶わず、少し悔いは残りますが、やれることはやり切ったという思いでいます。KONDO RACING に来て 2 年。このタイヤをどうしたらうまく使えるか、どうしたら速く走れるか、そればかりをずっと考えて過ごしてきました。いいタイヤを作れたというのを SUGO での優勝という結果で示

せたことも本当に良かったですし、「松田はまだあれだけ走れるんだぞ」という部分も見せられたかなと思っています。このタイヤをベースに、来年に向けさらに開発を進めていって、もっといいタイヤを作っていってもらえたらと思います。

■名取鉄平選手（リアライズコーポレーション ADVAN Z）

【今回の成績：GT500 クラス 10 位】

レース序盤のウォームアップが難しく、シーズン最終戦は残念な結果になってしまいました。ですが、シーズンを通して振り返ると、1 勝できたことは本当に大きいです。速さはもちろん、強さという部分はアピールできたのではないかなと思っています。松田選手からはタイヤの開発を始め、ドライバーとして戦っていく上で大事なものをたくさん吸収させてもらいました。あとは来年、思う存分頑張るだけです。さらに上を目指して頑張ります。

■国本雄資選手（WedsSport ADVAN GR Supra）

【今回の成績：GT500 クラス 11 位】

ピット作業の時間を短くできるよう、燃料セーブを考えながら走っていました。それでもペース良く走れていたのですが、接触でクルマにダメージを負ってしまいました。それほど大きな接触ではなかったと思うのですが、そこで本来のパフォーマンスを出せなくなってしまい、チームには申し訳ないです。なかなか結果が出ない苦しいシーズンでしたが、いい部分も見えた 1 年でした。今後に向けての課題も見えたので、なんとか来年はこれを克服して、いいレースができるようにしたいです。

■阪口晴南選手（WedsSport ADVAN GR Supra）

【今回の成績：GT500 クラス 11 位】

残念ながら序盤で不運な接触がありましたが、そういった状況でも比較的タイムが良かったので、今後に活きる部分かなと思います。今シーズンはポールポジションを 2 回獲ることができ、間違いなく去年からレベルが上がったと感じています。ただ決勝では、周りに対してウェイトが軽いときにチャンスを活かせなかったので、来年はそれを逃さないような戦いができるよう頑張っていきます。

■中崎敬介 [横浜ゴム（株）タイヤ製品開発本部 MST 開発部 技術開発 1 グループリーダー]

これで 2025 年シーズンが終わりました。終わってみればあっという間でした。

GT500 では苦しい戦いでしたがポールポジションをセパンと富士で 2 回取れたことと、そして SUGO で優勝できたことはたいへん嬉しく思っています。この時のデータやコメントを今後の開発に向けて有効な情報として活かしていきます。

GT300 では 8 戦中 5 勝できました。昨年のランボルギーニで 4 勝とは違い、複数の車種で優勝回数を伸ばせたことは、改良に取り組んだアプローチが間違っていなかったと考えています。特にリア荷重のある MR、RR での勝利が多かったことで、良いところは延ばしながら足りないところを克服する開発を継続したいと思っています。

<2025 シーズン 優勝したヨコハマタイヤ装着車>

【GT500 クラス】

第 6 戦 SUGO リアライズコーポレーション ADVAN Z（松田次生選手／名取鉄平選手）

【GT300 クラス】

第 2 戦 富士 UNI-ROBO BLUEGRASS FERRARI（片山義章選手／ロベルト・メリ・ムンタン選手）

第3戦 マレーシア UPGARAGE AMG GT3 (小林崇志選手/野村勇斗選手)

第5戦 鈴鹿 CARGUY FERRARI 296 GT3 (ザック・オサリバン選手/小林利徠斗選手)

第7戦 オートポリス seven × seven PORSCHE GT3R (ハリー・キング選手/藤波清斗選手)

第8戦 もてぎ マッハ車検 エアバスター MC86 マッハ号 (塩津佑介選手/木村偉織選手)

